

静岡県賀茂郡南伊豆町差田附近の地質：予報

著者	鮫島 輝彦, 松井 孝友
雑誌名	地学しずはた
巻	23
ページ	16-18
発行年	1960-09
出版者	静岡大学地学研究グループ
URL	http://doi.org/10.14945/00006065

静岡県賀茂郡南伊豆町差田附近の地質(予報)

※ 鮫島輝彦 △松井孝友

△
筆者は卒業研究として、本地域の調査を行っているが、鮫島助教授の報告(地学しずはた8号)による旧三坂村差田の石灰岩中に最近高等有孔虫を見出したので、その附近の地質と石灰岩について報告する。

本地域の地質については田山利三郎・新野弘・鮫島輝彦・角清等諸氏の御調査がある。

この附近は伊豆半島の最南部にあたり、300m前後のゆるやかな山地をなしている。中新世以来ほとんど絶えまない火山活動が行われて来たことを物語り、おもに火山噴出物からなる。この地域には従来考えられてきたように中新世古期の火山碎屑岩より成る湯が島層群と、これを不整合に覆う鮮新世の火山碎屑岩層より成る白浜層群がみられ、又白浜層群を整合的に覆う石室崎層が広く分布する。

本地域では湯が島層群の分布は断片的にみとめられ、妻良南方の吉田附近子浦—上小野間の峠附近・下小野・蝶が野・下賀茂・小稻—大瀬間・一色—上小野間及び差田に露出している。本層群には塩基性火山岩と石英安山岩質火砕岩が多く、全般的に変朽作用(緑泥石化及び珪化)を受けている。走向は一般に東西性をしめし傾斜は $25^{\circ} \sim 60^{\circ}$ をしめす。

差田の石灰岩は三坂農業協同組合の裏、約50mの川岸に露出するものである。附近は角閃石安山岩及び変朽安山岩(緑泥石化及び沸石化作用を受けている。)があり、石灰岩は泥質な変質凝灰岩にレンズ状にはさまれており約6m位の巾があるが相当破碎されている。本岩中には湯が島層群下部層のものと思われる変朽作用を受けた安山岩円礫をともなっており、巻貝・二枚貝が認められている。又検鏡すると、主としてBryozoa, Coral, 石灰藻及び少数の小型有孔虫からなっている。そして今度スンプ法を応用して白色チミツ質部より高等有孔虫 *Lepidocyclina angulosa*(?)及び *Lepidocyclina japonica* を確め、又 *L. angulosa* と共存する10数個の *Amphistegina radiata* の存在を確めることができた。よって本層が中新世古期のものであることが確定した。

又本層群にはマンガン鉱床が比較的多く、妻良・下小野・一色・蝶が野その他に小規模なものが存在し、鉱体は主として石英安山岩質の火山角礫岩中にみられる。下小野の鉱床では鉱体中に石灰岩が存在し、基底礫岩と思われる玄武岩質の円礫がある。石灰岩の産状は池代・小杉原のものと似て、巻貝や二枚貝も存在し、白色チミツ質な所には高等有孔虫の存在が予想される。(本岩は調査中である。)

湯が島層群を不整合に覆う白浜層は本地域では石室崎層に覆われている部分が多い。(ここで言う白浜層は渡辺氏等の原田層に対比されるものである。)白浜層群は妻良・子浦・入間・中木の低地や一色附近の内陸性の盆地に堆積しており、立岩及び一色では斜交層理がみとめられる。本層群は凝灰岩・安山岩質集塊岩よりなり、一色附近では角閃石の長柱状の結晶を含む白色凝灰岩層が広範囲に分布しており無層理の場合が多い。傾斜はゆるやかではほぼ水平に近い場合が多く、100m以下の厚さをもつものである。又石室崎層とは漸移関係にあるものと思われる。

以上の事から考えられることは、

○差田及び下小野における石灰岩は湯が島層群の下部層と上部層との不整合面の上に存在し、上部層の基底礫層の基質をなすものと推定される。

○白浜層群は湯が島層群の浸食が相当進み、切立った地形が存在する沿岸部に堆積し、低地を埋めたものである。



参 考 文 献

- 田山利三郎・新野 弘(1931)伊豆半島地質概報, 斎藤報13号
- 渡辺景隆・見上敬三・鈴木 信(1952)白浜層群の堆積状況—下田町東方の地質—地質雑
58巻 P93
- 鮫島輝彦(1955)地学しずはた 第8号 P15
- 増井靖也(1958)地学しずはた 第16号 P45

静岡県安倍川上流大河内川流域の地質

工 藤 周 一*

安倍川上流部砂防工事の為, 建設省中部建設局静岡工事事務所の要請により, 静岡大学地学教室員の手で, 同地域の崩壊・溪流調査及び地質調査が行われてきた。(3.4.5.6) 本報告は, 安倍郡梅ヶ島村湯ノ森から同郡大河内村平野に至る大河内川流域の調査の結果である。

調査は1959年10月に行った。野外調査にあたっては, 建設省堀田技官(当時中部地方建設局静岡工事事務所)に便宜を計っていただいた。また資料の整理と考察にあたっては, 本地学教室の鮫島輝彦助教授ならびに萩野嗣人氏に援助をいただいた。共に紙上を借りて, 厚く御礼申し上げる。

1. 地 形

大河内川流域は赤石山地の前山である身延山地の中央に位置する。身延山地は, 静岡県の北部で赤石山地と接し, 楔状の谷をつくる。この谷の東を限るのが, 南北に走る十枚山—真富士山—龍爪山—しずはた山の山嶺であり, これに平行に走って, 谷の西を限るのが, 笹山—勘行峯の山嶺である。地域の西寄りに南下するのが, 大河内川である。これらの南北性の大地形は, 南北性の地質構造を忠実に反映している。これは小地形に対してもあてはまり安倍川に注ぐ支流はすべて小さな横谷であり, 地形図で Insequent に見える沢も, 実際は, 横谷と縦谷のくり返しを行っている。

河谷及び山形は壮年期を示す。安倍川右岸二王山—見月山山稜では, 高度約1100m附近に山頂平担面が見られる。安倍川左岸の十枚真富士山山稜では, 平担面は顕著ではない。しかし, 高位段丘に基く平担面は, 左岸にのみ見られる。また左岸では瀬戸川累層群と龍爪層群との間に, 岩質の違いに

* 文理学部専攻生